

## 2学期の漢字

たしかめ

21

105	104	103	102	101
株	届	沿	探	俳
木の切り株に小鳥が止まる。	注 文 品 を 配 達 先 に 届 ける。	目 的 や 話 題 に 沿 つて 話 し 合 う。	宝 物 を 探 し 求 める。	俳 句 に は 季 語 を 必 ず 入 れる。

たしかめ

22

110	109	108	107	106
専	券	盛	座	看
専 門 家 の 意 見 を 聞 く。	映 画 館 の 入 場 券 を 買 う。	盛 大 に パ ー ティ 開 かれ 盛 り 上 がる。	バ ス の 座 席 に 座 る。	い ろ んな 看 板 が 並 ぶ 商 店 街 。

たしかめ

23

115	114	113	112	111
骨	潮	勤	純	模
体 を 支 える 骨 組 み が 「 骨 格 」。	干 潮 だ。潮 干 狩 り に 行 こう。	会 社 に 勤 める 父 は 電 車 で 通 勤 する。	単 純 明 快 な 説 明 で よ く 分 かる。	大 規 模 な 平 城 京 の 復 元 模 型 。

たしかめ

24

120	119	118	117	116
延	奮	層	穴	棒
予 定 日 を 先 に 延 ば す こ と が 「 延 期 」。	「 奮 起 」と は 、心 を 奮 い 立 た せる こ と 。	高 層 ビ ル が 建 ち 並 ぶ 大 都 会 。	厚 い 板 に ドリ ル で 穴 を 開 ける。	鉄 棒 の 逆 上 が り が で き た 。

たしかめ

21

105	104	103	102	101
き の き り か ぶ に こ と り が と ま る。	ち ゆ う も ん ひ ん を は い た つ さ き に と ど け る。	も く て き や わ だ い に そ つ て は な し あ う。	宝 <sup>たから</sup> もの を さ が し も と め る。	は い く に は き ご を か な ら ず い れ る。

たしかめ

22

110	109	108	107	106
せ ん も ん か の い け ん を き く。	え い が か ん の に ゆ う じ ゆ う け ん を か う。	せ い だ い に パ ー テ ィ ー ひ ら か れ も り あ が る。	バ ス の ざ せ き に す わ る。	い ろ ん な か ん ば ん が な ら ぶ し ゆ う て ん が い。

たしかめ

23

115	114	113	112	111
か ら だ を さ さ え る ほ ね ぐ み が 「 こ つ か く 」。	干 <sup>かん</sup> ち よ う だ。 し お 干 <sup>ひ</sup> 狩 <sup>が</sup> り に い こ う。	か い し や に つ と め る ち ち は で ん し や で つ う き ん す る。	た ん じ ゆ ん め い か い な せ つ め い で よ く わ か る。	だ い き ぼ な へ い じ ゆ う き よ う の ふ く げ ん も け い。

たしかめ

24

120	119	118	117	116
よ て い び を さ き に の ば す こ と が 「 え ん き 」。	「 ふ ん き 」 と は、 こ こ ろ を ふ る い た た せ る こ と。	こ う そ う ビ ル が た ち な ら ぶ だ い と か い。	あ つ い い た に ド リ ル で あ な を あ け る。	て つ ぼ う の さ か あ が り が で き た。

125	124	123	122	121
困	操	批	鋼	銭
貧困で困っている人々を助ける。	ドローンを巧みに操り操縦する。	温かい批評の言葉をもらった。	鋼鉄で作られた電車の線路。	銭湯は、銭を払って入る風呂

130	129	128	127	126
律	源	装	捨	収
規律を守って楽しい学校生活。	水の流れ出る源を「源流」という。	服装を夏の装いにする「衣替え」。	四以下は捨て、五以上は切り上げる四捨五入。	二桁勝利を収め、収入が倍増した選手。

135	134	133	132	131
冊	権	著	済	従
月に平均五冊の本を読む。	「人権」は、人が人らしく生きる権利。	著者の人気で本の売れ行きが著しい。	借金の返済が全部済んだ。	従順に指示に従うかわいい愛犬。

140	139	138	137	136
密	秘	納	縦	腹
体と心は密接に関係している。	秘かに伝えられた神秘の伝説。	税金を納めることが「納税」。	縦と横、縦横に走る都会の道路。	腹が痛い。腹痛だ。

## たしかめ

25

1 2 1	せんとうは、ぜにを払 <sup>はら</sup> ってはいる。ふ呂 <sup>ろ</sup> 。
1 2 2	こうてつでつくられたでんしゃのせんろ。
1 2 3	あたたかいひひょうのことばをもらった。
1 2 4	ドローンを巧 <sup>たく</sup> みにあやつり、そう縦 <sup>じゆう</sup> する。
1 2 5	ひんこんでこまっているひとびとをたすける。

## たしかめ

26

1 2 6	ふた桁 <sup>けた</sup> しようにりをおさめ、しゅうにゆうがばいぞうしたせんしゅ。
1 2 7	よんいかはすて、ごいじようはきりあげるししやごにゆう。
1 2 8	ふくそうをなつのよそおいにする「ころも替 <sup>か</sup> え」。
1 2 9	みずのながれでるみなもとを「げんりゆう」という。
1 3 0	きりつをまもってたのしいがつこうせいかつ。

## たしかめ

27

1 3 1	じゅうじゅんにしじにしたがうかわいいあいけん。
1 3 2	しゃっきんのへんさいがぜんぶすんだ。
1 3 3	ちよしゃのにんきでほんのうれゆきがいちじるしい。
1 3 4	「じんけん」は、ひとがひとらしくいきるけんり。
1 3 5	つきにへいきんごさつのほんをよむ。

## たしかめ

28

1 3 6	はらがいたい。ふくつうだ。
1 3 7	たてとよこ、じゅうおうにはしるとかいのどうろ。
1 3 8	ぜいきんをおさめることが「のうぜい」。
1 3 9	ひそかにつたえられたしんぴのでんせつ。
1 4 0	からだとこころはみっせつにかんけいしている。

145	144	143	142	141
除	絹	訪	泉	派
除雪・除草、除は「取り除く」という意味。	絹糸のような筋雲を「絹雲」という。	訪日した大統領が原爆資料館を訪れた。	水の湧き出る泉。その水が熱いと温泉。	表千家や裏千家は茶道の流派。

150	149	148	147	146
宝	針	聖	蒸	宅
金銀の財宝を満載した宝船。	針のように葉が細長い木は針葉樹。	神社の境内は神聖な場所だ。	もち米を蒸気で蒸してお餅つき。	新興住宅が建ち並ぶ町。

155	154	153	152	151
預	染	乱	優	灰
「預金」は銀行にお金を預けること。	「染色」とは、布や糸を染めること。	乱雑な使い方をして部屋が乱れる。	優しくて、技能も優れた優秀な人。	石灰石は灰色をした石だ。

160	159	158	157	156
皇	磁	射	寸	退
天皇が住んでおられる皇居。	電磁石を作って実験する。	射程距離に入った獲物を矢で射る。	寸法を測ったら同じ長さだった。	天皇の位を退くことが「退位」。

## たしかめ

29

1 4 5	1 4 4	1 4 3	1 4 2	1 4 1
いみ。 じよせつ・じよそう、じよは「とりのぞく」という	きぬいのようなすじぐもを「けんうん」という。	ほうにちしただいとうりようが げん爆しりようかんをおとずれた。	みずの湧きでるいずみ。そのみずがあつとおんせん。	おもてせんけやうらせんけはさどうのりゆうは。

## たしかめ

30

1 5 0	1 4 9	4 8 1	1 4 7	1 4 6
きんぎんのざいほうをまん載したたからぶね。	しんようじゆ。 はりのようにはがほそながいきは	じんじやのけいだいはしんせいなばしよだ。	もちごめをじようきでむしてお餅つき。	しんこうじゆうたくがたちならぶまち。

## たしかめ

31

1 5 5	1 4 4	1 5 3	1 5 2	1 5 1
「よきん」はぎんこうにおかねをあずけること。	「せんしよく」とは、ぬのやいとをそめること。	らんぎつなつかいかたをしてへやがみだれる。	やさしくて、ぎのうもすぐれたゆう秀なひと。	せっかいせきははいろをしたいいしだ。

## たしかめ

32

1 6 0	1 5 9	1 5 8	1 5 7	1 5 6
てんのうがすんでおられるこうきよ。	でんじしゃくをつくつてじっけんする。	しやてい距離にはいった獲ものをやでいる。	すんぽうをはかったらおなじながさだった。	てんのうのくらいをしりぞくことが「たいい」。

165	164	163	162	161
庁	閣	党	陛	后
気象庁の天気予報を聞く。	内閣総理大臣に任命される。	国会にはいろんな党派がある。	戦争の終結を告げた天皇陛下。	天皇のお后様が皇后陛下。

170	169	168	167	166
頂	翌	己	憲	裁
山の頂を「山頂」という。	運動会の翌日は体が重い。	それは自己満足に過ぎない。	憲法に書かれた不戦の誓い。 <small>ちか</small>	訴えや争いを裁くことが「裁判」。 <small>うった</small>

176	175	174	173	172	171
承	衆	揮	奏	劇	至
「その件、承りました。」と承諾した。 <small>だく</small>	国会の衆議院と参議院。	先生の指揮に合わせて合唱する。	楽器を奏で、交響曲 <small>きやうきゆう</small> を演奏する。	劇場で人形劇を発表した。	至つて難しいことを「至難の技」という。

# たしかめ

33

165	164	163	162	161
きしようにうの てんきよほうを きく。	ないかくそうりだいじん にんめいされる。	こっかいには いろんなとうはがある。	せんそうの しゅうけつをつげた てんのうへいか。	てんのうのおきさきさまが こうごうへいか。

# たしかめ

34

170	169	168	167	166
やまの いただきを 「さんちよう」という。	うんどうかいの よくじつは からだが おもい。	それは じこまんぞくに すぎない。	けんぼうに かかれた ふせんの 誓い。 <small>ちか</small>	訴えや あらそいを さばくことが 「さいばん」。 <small>うった</small>

# たしかめ

35

176	175	174	173	172	171
「そのけん、うけたまわりました。」と しよう諾 <small>だく</small> した。	こっかいの しゅうぎいんと さんぎいん。	せんせいの しきに あわせて がっしょうする。	がつきを かなで、こう響 <small>ひび</small> きよくを えんそうする。	げきじようで にんぎようげきをはっぴようした	いたって 難 <small>むずか</small> しいことを 「し難 <small>なん</small> の わざ」という。